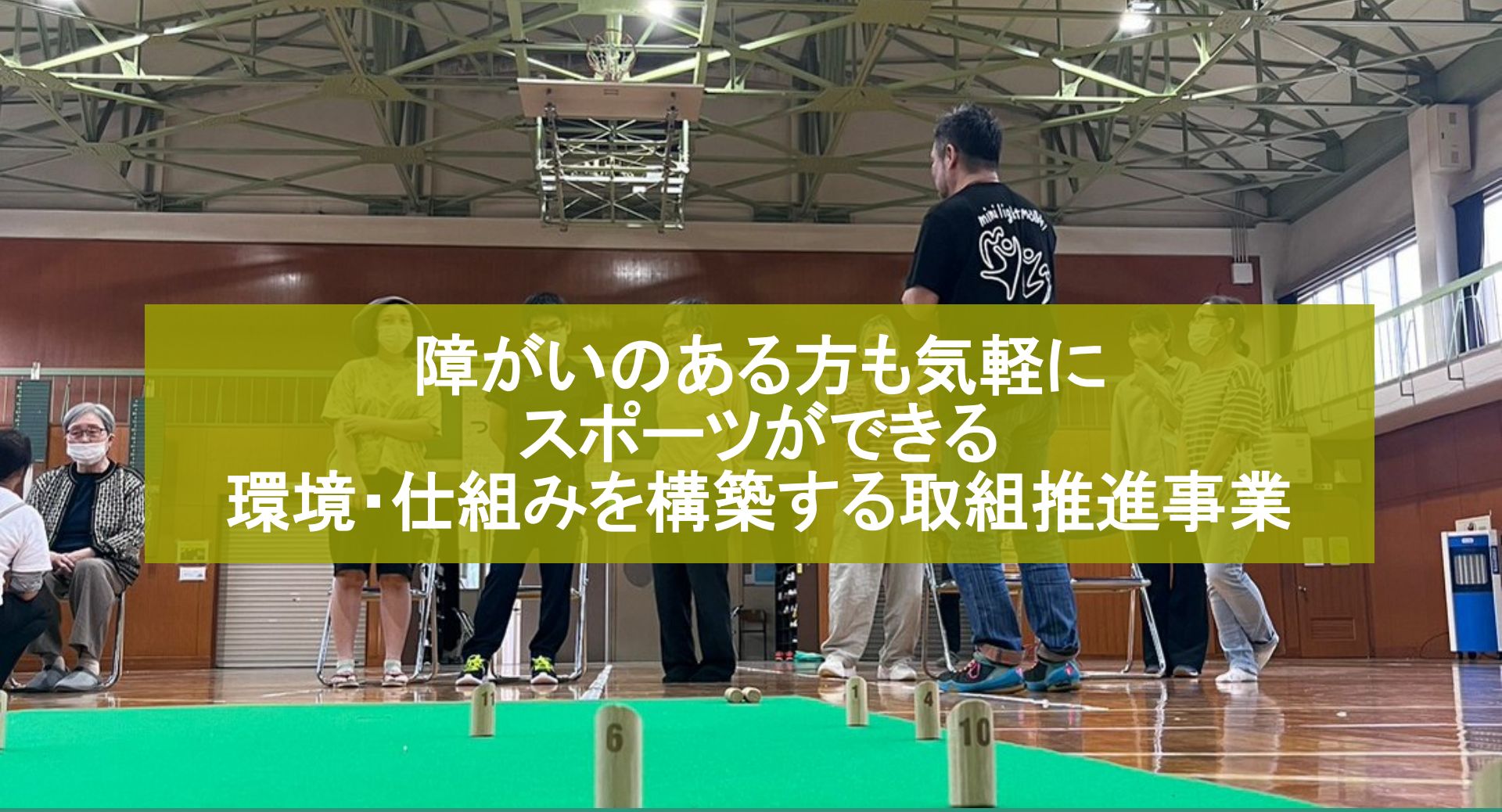


障がいのある方も気軽に スポーツができる 環境・仕組みを構築する取組推進事業

第3回　地域の身近なスポーツの場つくりに関するオンラインセミナー
学校体育館施設の有効活用について

2024年2月16日(金)
一般社団法人ミニらいとモルック®協会
mini light Mölkky®

私たちが目指す姿とは…

その地域の誰もが知っている**小学校体育館施設を核**として、多様性を認め合うスポーツを通して、**誰もが気軽に集まり、交流が促進され、健常者と障がい者等の相互理解を深め、地域内での共生社会を実現**

＜課題認識＞

体格、年齢、障がいの程度の差によって、できるスポーツが異なることから、同世代や同じ境遇の方だけで楽しむことが多くなってしまい、**地域内において、多世代交流が少ない**。

障がい者や高齢者の中には、**公共スポーツ施設まで出向くことが難しい**、介護施設等といった**狭いスペースでの運動に限られてしまっている**方が多い。

障がい者への理解や共生社会の実現に向け、**地域内において持続可能な仕組みづくり**が求められる。

本事業のテーマ

1

最も身近なスポーツ施設である学校体育施設を活用するため、**既存の学校体育施設において、ソフト面を重視した受入環境の整備**

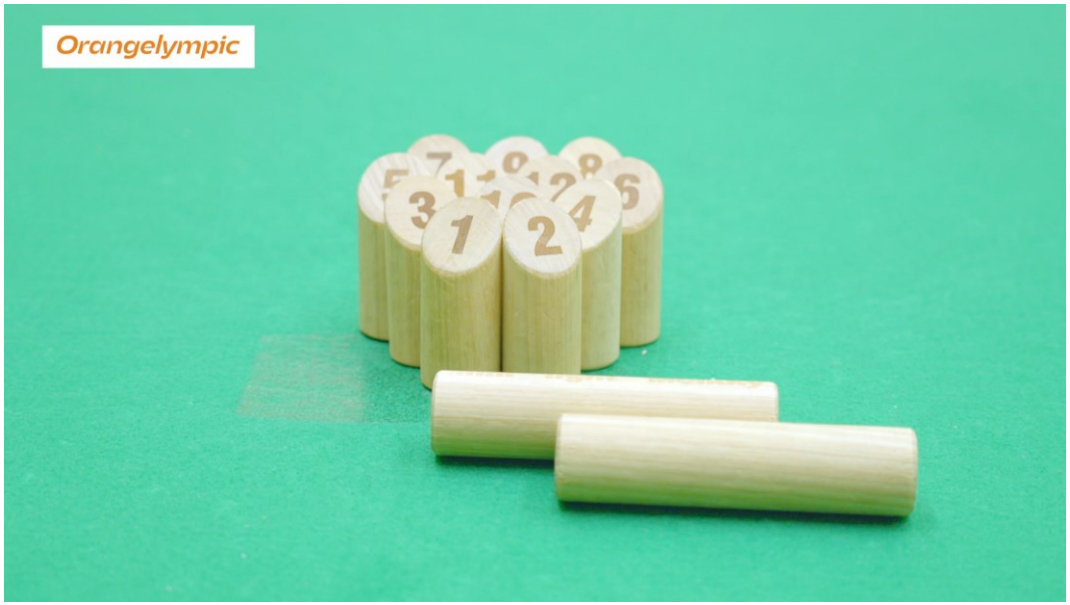
2

ユニバーサルスポーツ（ミニらいとモルック）のプログラムをフックとし、健常者と障がい者に関わらず、**誰もがスポーツに親しめる機会の創出**

3

ユニバーサルスポーツの意義等に対する**理解の醸成を図る人材育成の実施**

ミニらいとモルックとは？



体格・年齢・性別・障がいの差なく競い合い笑い合う、時間を作り出す新しいスポーツとして大阪で生まれた。
室内で安全にできるという利点から、福祉・介護施設はもちろん一般家庭や学習塾、企業の交流会イベントなどで活用いただいている。

学校体育館の利用にあたってのハードル

- ✓体育館内だけでなく、通路やトイレなどバリアフリー化されていない場所も多く、安全面の確保等の受入面で課題が多い。
- ✓特にトイレは車椅子が入るスペースがない、段差、靴の着脱などがある。
- ✓冷暖房がないところが多い。
- ✓学校や自治体の視点では、開放にあたり、施設の破損等の原因になるなどの理由で、一般に貸したくないという意見もある。
- ✓特に、車椅子使用については、学校施設側への確認が必要である。

トイレが外にある（狭い）

動線がわかりづらい

取組1

学校体育施設の受入環境の整備

点検

- 既存の学校体育施設を活用するため、**学校の環境を点検**。

対応策の検討

- 洗い出した課題への**対応策を検討**し、マニュアルとしてまとめ、**関係者と共有**。
- 実際に**当事者（車いす利用者等）からの意見も把握**。

実施

- マニュアルを基に、「教室」「大会」を実施。

検証改善

- アンケート等で**利用者の声の把握**。
- **熊取町担当者が参加する全体会議**にて、取組内容の認識確認や「教室・大会」で出た課題への対応を検討。（毎月1回程度開催）

取組1

学校体育施設の受入環境の整備

【取組（一例）】

車椅子や障がい者専用の駐車場がない

- 体育館に一番近い場所にコーンを設置し、障がいのある方優先の駐車場とわかるように表示した。

入口にて、靴を着脱することが難しい

- 入口付近に、簡易的ないすを設置し、座りながら靴の着脱ができるように工夫する。

トイレが体育館の外にある

- 靴を脱がず、トイレまで行けるよう、屋外にシートを敷いた。

パニック障害になった際の対応が求められる

- 体育館の事務室を待機場所としての活用を想定した。

学校の備品等が多く存在し、危険である

- 近寄らないように、囲いを行い、注意喚起を行った。

取組2

誰もがスポーツに親しめる機会の創出

教室

・**ミニらいとモルックを知ってもらうために、**町を通じて広く周知するとともに、高齢者や障がい者の施設に声をかけ、**小学校の体育館において「教室」を開催**。

場所：2施設（中央小学校・北小学校）
回数：11回
参加人数：294人（累計）、平均27人／回

大会

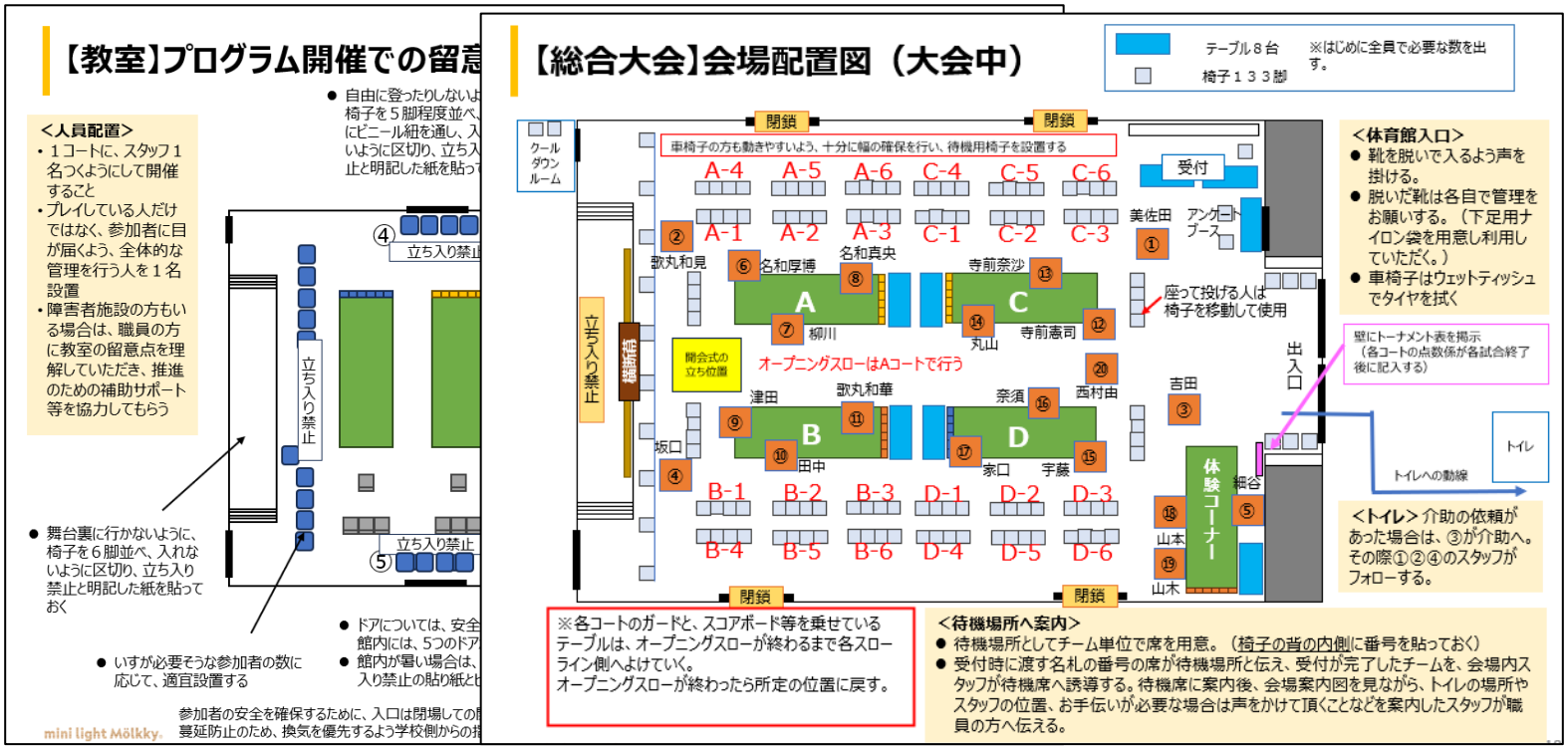
・**多くの方と交流を図るために、「大会」を開催。**
・これまでは社会体育施設を使って開催していたが、もっと参加しやすいようするため、身近な学校で実施。

場所：2施設（中央小学校・北小学校）
回数：3回
参加人数：250人
（第一大会22組・70名/第二大会22組・60名/総合大会34組・125名）

取組2

誰もがスポーツに親しめる機会の創出

- 実施にあたり、スタッフが参加者の受入に関するスタンスや対応の共有を図るため、「開催マニュアル」を作成し、開催前に共有を図った。



取組2

誰もがスポーツに親しめる機会の創出

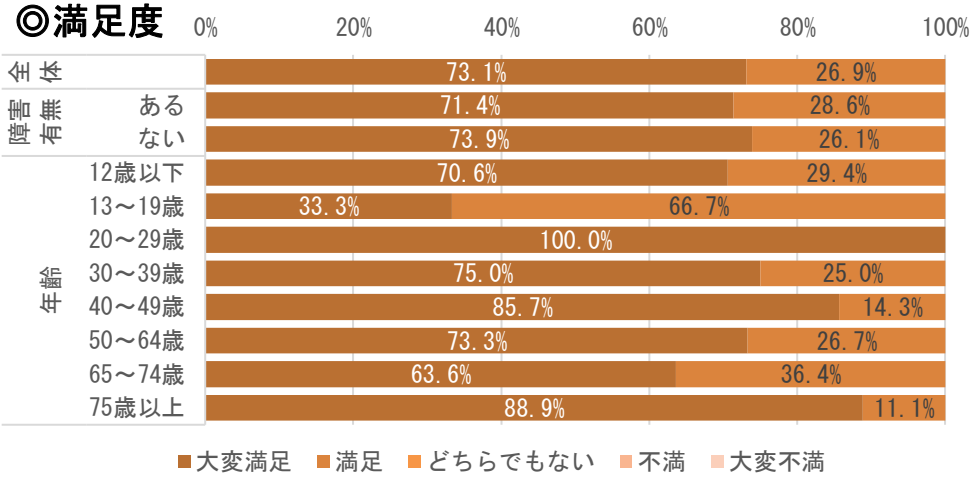
教室

<参加者の主な属性>

- 認知症
- 身体障がい(弱視・パーキンソン病)
- 知的障がい、発達障がい
- 健常者(学童、スポーツ推進委員、地域住民、ボランティア団体)

子どもから大人まで

◎満足度



取組2

誰もがスポーツに親しめる機会の創出

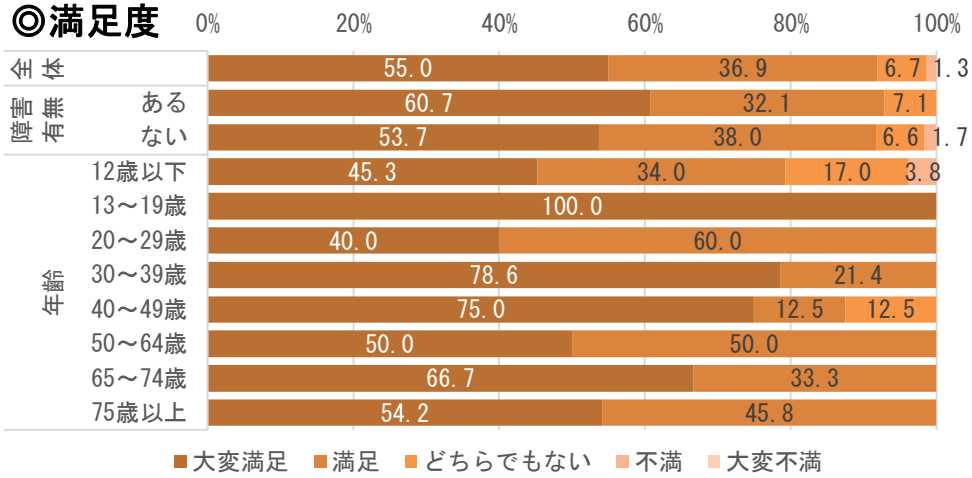
大会

<参加者の主な属性>

- 認知症
- 身体障がい(電動車椅子)
- 知的障がい
- 発達障がい
- 健常者(学童、スポーツ推進委員、地域住民、ボランティア団体)

子どもから大人まで

◎満足度

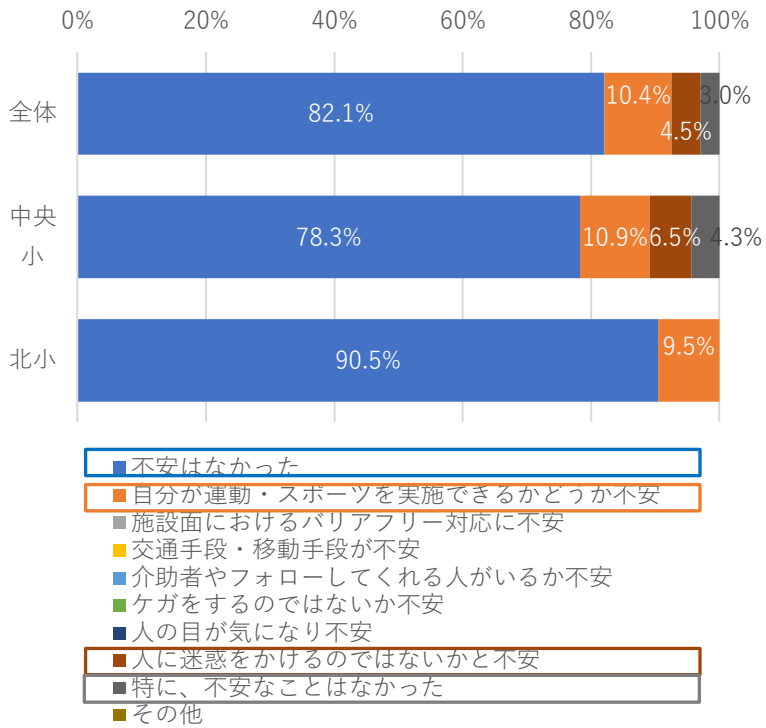


取組2

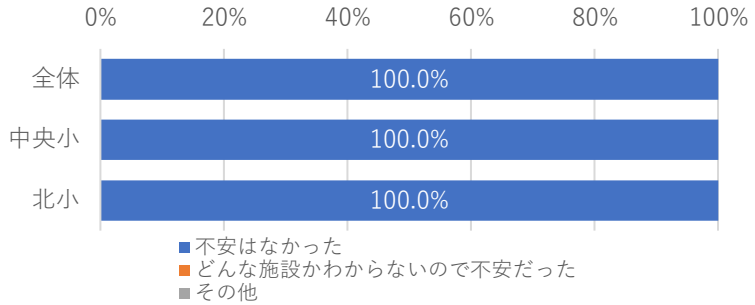
誰もがスポーツに親しめる機会の創出

■アンケート結果（教室）

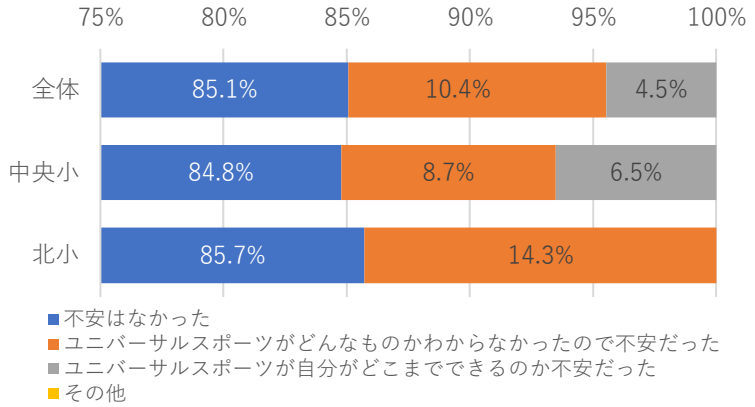
参加への不安事項



施設への不安事項



ユニバーサルスポーツへの不安



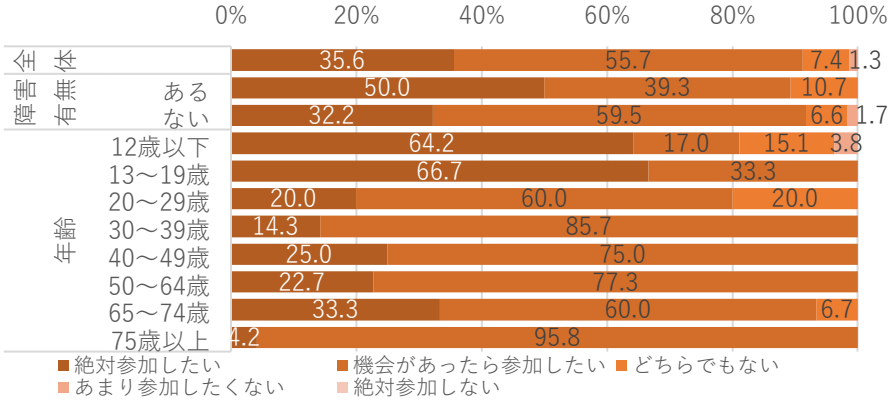
取組2

誰もがスポーツに親しめる機会の創出

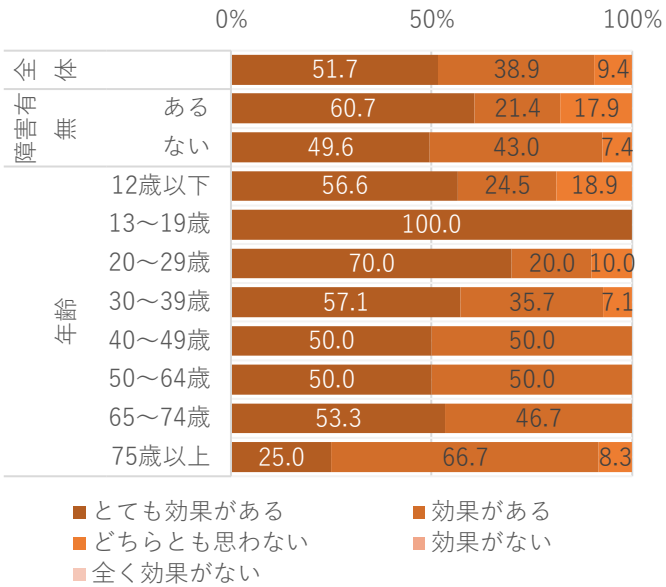
■アンケート結果（大会）

参加への不安事項

		自分が運動・スポーツを実施できるかどうか不安	施設面におけるバリアフリー対応に不安	交通手段・移動手段が不安	介助者やフォローしてくれる人がいるか不安	ケガをするのではないか不安	人の目が気になり不安	人に迷惑をかけるのではないかと不安	特に不安なことはなかった	その他
全体		9.4	0.0	2.0	0.0	1.3	0.7	0.0	87.2	0.7
障害有無	ある	21.4	0.0	10.7	0.0	0.0	0.0	0.0	67.9	3.6
	ない	6.6	0.0	0.0	0.0	1.7	0.8	0.0	91.7	0.0
年齢	12歳以下	15.1	0.0	1.9	0.0	1.9	1.9	0.0	81.1	0.0
	13～19歳	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
	20～29歳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	30～39歳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	40～49歳	12.5	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	75.0	0.0
	50～64歳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	65～74歳	13.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	86.7	0.0
	75歳以上	4.2	0.0	0.0	0.0	4.2	0.0	0.0	87.5	4.2



運動・スポーツを実施する機会を促す効果



今後の「大会」への参加意向

取組3

理解の醸成を図る人材育成の実施

ボランティア・ファンづくり

●スポーツ推進員の参加

・教室等に、町のスポーツ推進員に参加いただき、本活動の理解を促進

●施設の方との連携

・施設等に出向き、実際に体験してもらい、本取組への理解を促進

・教室や大会等では、トイレへの誘導や待機中の対応等を施設スタッフと連携

●大学生等の活用

・地元の大学生等に声をかけ、ボランティアとして参加

→ガクチカとなるよう、証明書等を発行

指導者養成講座の開催

- 今後、地域の中で持続的に本取組が実施できるよう、地域の方々を対象とした**指導者養成講座を開催**。

【内容】

共生社会について

・ユニバーサルスポーツとは。

・身体的、精神的、社会的に障害や要支援が必要となるとはどういうことか。

・同じ地域に住むからこその相互扶助の理解や対応が何か。

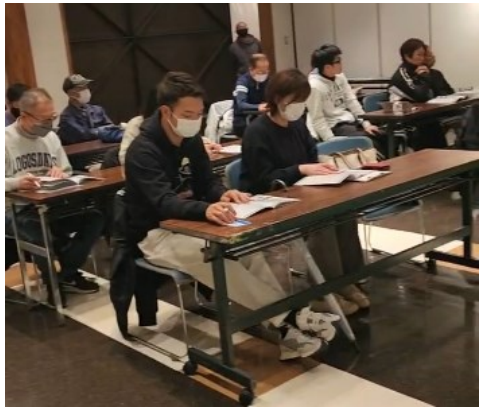
ミニらいとモルックについて

・ミニらいとモルックのルール

・楽しませ方、声のかけ方

・大会や教室の進め方などの技術的な指導

＜受講者（3回開催）＞
計53名　受講



取組3

理解の醸成を図る人材育成の実施

- 指導者養成講座の受講者やボランティア等による「教室」の開催

役割

① 主審として、ルールの説明や、勝敗の説明
② 参加者の様子（身体や精神の状態）の把握
③ 正しい声掛け
④ 時間管理と進行

※当協会は、裏方支援

結果

●説明を言い忘れたりすることもあったが、参加者が常連だったので、助けられていた。
●声掛けには個性もでるので、ダメ出しはせず、大切なポイントだけアドバイスした。

〇協会スタッフと照らし合わせて、相違点などないか確認し、大きな問題はなかった。
〇開放の限られた時間の中で、プレー時間に対する時間感覚やマネジメントの考え方を育めた。

どの参加者も、安全に楽しく取組を行うことができていたため、
引き続き、マニュアルに基づき、障がい者等を受け入れ、実践を通じて定着させていきたい。

本事業の成果

小学校体育館を活用して地域スポーツを行う意義と効果とは…

80歳を過ぎて始めたスポーツで、小学生にも大学生にも勝って3位入賞。(83歳男性)

子供と一緒にはしゃぐ大人。普段は社長ですが、今日は肩書はいりません。(50代男性)

公共スポーツ施設ではなく、
小学校体育館だからこその、交流ともいえる。

認知症グループホームのお住いの要介護の80歳女性。
グループホームの施設の方と一緒に中央小で開催していた教室お越しになられた。
小学校体育館に入るやいなや、スタスタと校歌のところまで行き、「ここで私は先生しとったんや」と語り始めた。
過去の記憶が鮮明によみがえったようで、表情や歩く姿勢まで変わった。そこで、その女性のことを「先生！」と呼び、教室に参加していただいた。普段は、ふらふらと立って何か探すことを繰り返す女性だが、この体育館の中では、そういった症状は出ず、一緒に参加する子どもたちと話したり、一緒に来た要介護者の世話をやく一面もあった。

本事業の総括

1

- 学校体育施設において、ハード面での受入環境は不十分であるものの、スタッフや施設、親族等のサポートが必要不可欠となるが**ソフト面でカバーし、安全に受け入れることができた。**
- 学校施設の造りの性質上、自由に参加することが難しく、**地域スポーツの場としての拠点としては課題が残った。**

2

- 児童・介護・福祉施設等と連携し、多世代の人たちを一定程度確保し、ミニらいとモルックを通して、**性別、年齢、障がいの有無に関わらず、共に楽しむことができた。**
- 一方、複数回「教室」を取り組んだ中で、施設や地域の偏りがあり、**小学校の近所の市民の参加者が来ることは少ない状況であった。**

3

- 人材育成を通して、今後、地域スポーツを担う人材の育成を行うことができた。**次年度以降は、この人材を中心に、ファンやボランティア等を増やし、地域で自立することができる環境を整えていく。**

今後の展望

地域スポーツの定着と拡大に向けて求められること

誰もが・・・	ターゲットが絞られない
気軽に・・・	よくわかっていれば参加しやすい
身近・・・	すぐに行ける送迎がある

人材

そのスポーツが好き
そのスポーツで〇〇を作りたい
数ではなく、理念がある人が結集する

環境

通いやすい場所
足らないところを埋めるアイディア
地域スポーツならではのお互い様

仕組み

官民連携
楽しい継続性(スケジューリング)
社会に還元できる仕組み

ご清聴ありがとうございました。

こころから、たのしく。

一般社団法人 mini light Mölkky® 協会